

富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ
遊文舎で『ワークフロー実践セミナー&工場見学会』を開催
XMFを核にした自動化・効率化への多角的な取り組みを紹介

2016年10月31日

富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社

富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ(社長:真茅久則、以下 FFGS)は、9月16日、株式会社遊文舎(本社:大阪市淀川区木川東4-17-31、社長:木原庸裕氏)において、ハイブリッドワークフローシステム『XMF』(『XMF Complete』『XMF Remote』『XMF ColorPath』)およびその関連システムの活用効果を紹介する『ワークフロー実践セミナー&工場見学会』を開催。11名の参加者が、セミナーの受講と制作現場の見学を通して、生産性向上を始めとする具体的な XMF 導入メリットについて、間近で確認した。



■生産効率の抜本的な改善を期して、『XMF』でワークフローを刷新

見学会の冒頭では遊文舎の木原社長が挨拶に立ち、自社の概要や『XMF』導入の経緯などを簡潔に説明した。1969年に大阪で創業した同社は、大学向け教科書や団体広報誌などの印刷からスタートし、その後着々と事業を拡大。現在は、先進的なデジタルワークフローを駆使し一般書籍やパンフレットなどの「企画・デザイン」から「印刷・製本」までをワンストップでこなすクリエイティブな総合印刷会社へと変貌を遂げた。

デジタル化への大きな一歩として同社が CTP の運用を開始したのは2004年のこと。以来、長期にわたり他社製の RIP /プレートセッターを使用してきたが、生産性の面から製版工程の見直しが必要になり、富士フィルムを含む3社の製品



遊文舎 代表取締役社長
木原 庸裕 氏

を比較検討。その結果、総合的なパフォーマンスの高さが決め手となり、2013年から順次、XMFによるワークフローの刷新を進めている。

まず初めに導入した、システムの基盤となる『XMF Complete』について、木原社長は、他社 RIP でボトルネックとなっていた生産性における課題をクリアしていた点などを高く評価。狙い通り生産性アップの手応えを掴み、翌2014年9月には『XMF Remote』の導入により営業担当者の意識改革を実現した。2016年には『XMF ColorPath』の採用によって、印刷機やプルーフ、デジタルプレスの色再現をASP経由で管理する、一歩進んだカラーマネージメント体制が確立した。同社ではデジタル印刷への取り組みも早く、現在、富士ゼロックスの『Color 800 Press』『Color 1000 Press』『Nuvera 288 EA』『DocuColor 1450 GA』など多彩なシステムを揃え使い分けしているが、これらの出力機との親和性の高さも、『XMF』を選んだ大きな理由の一つだったという。

■「スクリプトによる自動化」と「XMFによる効率化」で「楽しく幸福」を追求

木原社長の挨拶ののち、遊文舎制作課の宮島源三郎マネージャーが登壇し、『作業の自動化による生産性の向上～自動化と省力化』と題するセミナーがスタート。宮島氏は「オフセット／デジタル印刷機の効率的かつ戦略的な活用の具体例」として「自社の制作工程における自動化・省力化の工夫、XMFの活用」について、スクリプトの実演を交えながら以下のように語った。

「当社では、経営理念として『遊文舎に関わるすべての人が楽しく幸福であるために、仕事は面白くやらかなアカン!』という一文を掲げている。これを制作現場でのアプローチとして捉えると、『楽しく幸福』とは、皆が早く仕事を終えて、自分の時間や家族・友達と過ごせる時間を多くつくること。

また、『仕事を面白く』とは、たとえば画像のリネームやコピーのみといった単純作業ではなく、デザインや作業効率の改善など、頭を使いながら行なう作業ではないかと考えた。単純作業を減らし『楽しく幸福』を実現するため、当社では『スクリプトによる作業の自動化』と『XMFワークフローによる作業手順の効率化』という2つの手法を並行して実施している」



遊文舎 制作課 マネージャー
宮島 源三郎 氏

◎取り組み1：スクリプトによる作業の自動化

Adobe製ソフトの制御には、Mac用のAppleScriptにもWindows用のVBScriptにもJavaScriptなどを使用。一般的なファイルのリネームやコピーなどには、Macではシェルスクリプト、Windowsではコマンドプロンプトを利用できる。

スクリプトやマクロを使うメリットは複数ある。まず、人為的な手作業のミスを減らし、

作業時間を短縮できること。スクリプトの処理は新入社員にも 10 年目のベテランにも同じ結果をもたらすので、オペレーターの技量に依存しない。市販の組版ソフトでも同等の処理は行なえるが、スクリプトは「長体だけをかける」というような小回りが利く。一方で「複数の処理をさせようとする」と設計やルール化がシンプルでなくなる」「簡易言語なので市販ソフトに比べて処理速度が遅い」「実際にスクリプトを作れる人材があまりいない」などのデメリットもある。

当社では適用範囲を決めながら、「文字あふれ対応」や「ルビ振り」「数値変更」といった細かな作業から、「Web 用バナーや、情報誌の自動組版」のような複雑な作業まで、JavaScript を中心にスクリプトやマクロを活用。具体的な効果として、仮に 50 ファイルの PDF 画像を InDesign でレイアウトする場合、人手では 50 回以上の操作が必要になるが、画像配置のスクリプトを使えばすぐに終わる。たとえば大学の新生向けの賃貸不動産情報誌には 80 ページに 500 件ほどの物件を掲載するが、このデータを朝に受け取れば、すぐに組版が完了し、その日のうちに初稿をお客さまに戻すことができる。

◎取り組み 2 : ワークフローによる作業手順の効率化

当社ではセンター RIP に『XMF Complete』を据え、すべてのジョブを『XMF Complete』経由で出力している。これにより、「校正ゲラで正しく再現されていた文字が刷版時に化けてしまう」というトラブルがなくなった。

色管理は『XMF ColorPath』で統制している。導入以前は、たとえばデジタルプレスで出力した校正ゲラで校了となっても、オフセット印刷機で刷ると、色の濃淡などに差が出てしまっていたが、『XMF ColorPath』による一貫したカラーマネージメントにより、どの印刷機でも色が合うようになった。

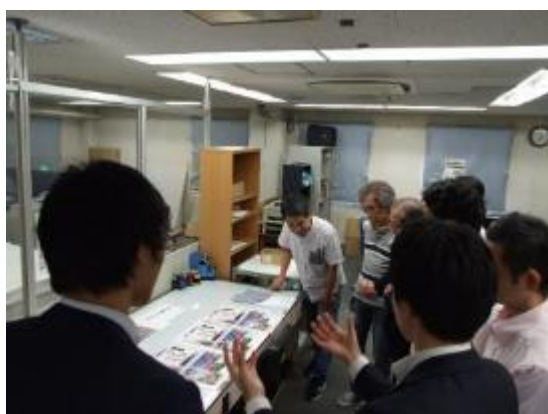
社内での原稿のやり取りはすべて『XMF Remote』を通して行なっている。これまでは、ゲラを大阪本社から東京営業所に郵送していたので、時間も手間もかかり、また、せっかく東京にも印刷機を設置しているのにジョブの発行は大阪で行なっていたため、夜間など、東京営業所が必要とするタイミングで出力できないこともあった。『XMF Remote』導入によって、必要なときすぐに東京でジョブを発行・出力できるようになり、大幅な時間短縮、作業効率アップが実現している。

■XMF を始めとする先進ソリューションの実力を、現場でリアルに体感

セミナーの後は 2 班に分かれて社内を見学。参加者は随時、それぞれの部署のオペレーターに使用感や効果の実感などを尋ね、貴重な現場の声に、熱心に耳を傾けた。

オフセット印刷機やポストプレス機器が配置された 1 階では、完全無処理 CTP プレート『SUPERIA ZP』の刷り出しの速さや、優れた取り扱い性などに関心が寄せられ、POD 機 4 台が並ぶ 2 階では、富士ゼロックスのモノクロ機『Nuvera 288 EA』の高い生産性が話題になった。製版、カラーマネージメントの中核部である 3 階では、『XMF ColorPath』に

よりすべての印刷機の色が揃っていることを、参加者が自身の目でじっくりと確認。その後、CMSにおける色調整メンテナンスの頻度や、完全無処理プレートによるコスト削減効果などについて熱心な質疑応答があった。4階の制作課では、MIS 経由で『XMF Remote』へのジョブ発行を実演。その場で体感できる生産性向上の効果や優れたインターフェースに注目が集まった。



最後に FFGS 大阪営業部部長の前田弘毅が挨拶し、「遊文舎様の、効率化に向けたさまざまな切り口の取り組みが、皆さまのビジネスに何らかの形でお役に立てるものと確信している。富士フイルムグループも、今後、機能面・性能面において、さらなる製品の改良を進めていくので、導入の検討、お引き合いをお願いしたい」と述べ、見学会を締めくくった。



FFGS 大阪営業部 部長
前田 弘毅